

研究の概要

1. 研究の目的

この研究は視覚聴覚二重障害をはじめとする重複障害を有する児童・生徒（クライアント）を教育している学校の教員組織（コンサルティ）に専門職（コンサルタント）として介入し、現場での課題解決に参画することを目指した「学校コンサルテーション」に関する研究である。この研究では、学校現場が抱えている課題を中心に、実践や授業研究への訪問参加およびテレビ電話を利用した相互情報交換、課題解決にむけての研修プログラムの開発を行い、学校コンサルテーションによる教員研修方法の内容・方法を明らかにしようとした。

学校における教育実践に、外部の専門家が介入することはわが国でもかなり以前から行われてきたが、それは多くの場合、一時的な助言であったり、客観的な観察であったりして、学校現場が日常的に抱えている問題解決にむけて協同して実践することは少なかった。しかし、今日、学校教育が時代の変化の中で多くの困難に直面し、その解決のために、新たな取り組みが必要な時代にあつては、従来のような客観的な観察者や調査者としてではなく、学校が抱える問題を解決することに協同する問題解決協力者として、実践研究に参画し、相互が持っている資源力を共同させることで問題解決に向っていくというような方向性をもった協同研究が必要となるであろう。

この研究においては、特殊教育のフィールドの一つである、視覚聴覚二重障害をはじめとする重複障害教育を対象にする。この教育は、それ自体で一つの学校種を形成していない点で、教育内容や方法の専門性において蓄積がなされにくく、それだけに様々な専門家との協力の必要度の高い分野である。現在まで、重複障害児への教育は盲学校やろう学校、養護学校等を中心に組み込まれているが、個々の障害や困難な課題についての専門的な対応について必ずしも十分になされていないのが現実である。例えば、盲学校に在籍する盲ろう児は、視覚障害についての教育はカバーされても、聴覚障害に関する課題や、障害が重複することによって生じている課題については十分な教育を受けることが出来ていない場合が多い。また、ここ数十年、盲・ろう・養護学校等に在籍する児童・生徒の障害は重度・重複化しており、個々の実態が示す幅の広がりも大きくなって、新たな課題も増えてきている。最近の学習指導要領改訂においても重視されている、より個別的な視点からみた指導内容と方法の開発は、個々の児童・生徒の学校生活現場において直接的実践的に取り組まれていく必要があるものと考えられる。

2. 研究の方法

この研究は、研究者側からみれば、個々の教員や組織体そのものの成長を支援するという意味での「学校コンサルテーション」である。それは研究方法からは、アクション・リサーチであり、学校内の学部や学年といった組織あるいは学校組織全体へ介入するという意味でメゾ・システムあるいはマクロ・システムへの介入を含むソーシャル・サポートといえよう。このような観点からの学校と専門職との協同研究はこれまで少なかった。この研究では、研究分担者の職場が教員の専門研修を受け持つ国立研究機関である利点を生かして、これまでに相互交流の実績がある数例の学校を対象として、それら学校現場での実践的研究に直接かつ継続的に参加し、学校で生じている具体的な課題の解決を目標とした「学校コンサルテーション」を行った。コンサルテーションそのものは、1) 学校現場へ直接訪問してのケース研究および授業研究、2) 学校との協力のもとで企画した研修プログラムの実施、3) テレビ電話を利用した実践検討会および情報交換、等の形態で行った。

＜対象機関＝コンサルティ＞

継続的な訪問を中心としたコンサルテーション

- ・ 宮城県立盲学校（重複障害のある児童生徒の指導グループ）
- ・ 福島県立郡山養護学校（自立活動を中心とした教育課程による小学部指導グループ）
- ・ 栃木県立盲学校（視覚聴覚二重障害のある児童および重複障害のある児童生徒の指導グループ）
- ・ 東京都立葛飾盲学校（視覚聴覚二重障害のある児童の担当教師）
- ・ 川崎市立小学校たんぽぽ学級（重複障害のある児童の在籍する特殊学級）

テレビ会議システムを利用した遠隔コンサルテーション

- ・ 宮城県立盲学校（上記と同じ）

- ・千葉県立安房養護学校（重複障害のある児童生徒の指導グループ）
- ・静岡県立静岡盲学校（重複障害のある児童生徒の指導グループ）

3. 研究組織

研究代表者 菅井 裕行
独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 重複障害教育研究部 重複障害第一研究室
主任研究官

研究分担者 土谷 良巳
独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 重複障害教育研究部 重複障害第一研究室
室長 （～平成 13 年 12 月）
上越教育大学学校教育学部 教授 （平成 14 年 1 月～）

研究代表者の菅井裕行は、研究全体の統括と、学校コンサルテーションの実践、テレビ会議システムによるコンサルテーションを実施した。研究分担者の土谷良巳は、学校コンサルテーションを実施した。それぞれが関与した対象機関は次のようである。

菅井裕行の担当：宮城県立盲学校、福島県立郡山養護学校、栃木県立盲学校、千葉県立安房養護学校
東京都立葛飾盲学校、静岡県立静岡盲学校、川崎市立小学校たんぽぽ学級

土谷良巳の担当：宮城県立盲学校、栃木県立盲学校、東京都立葛飾盲学校、川崎市立小学校たんぽぽ学級

研究協力者 吉武 清實 東北大学教育学部 助教授
松木 健一 福井大学教育地域科学部 助教授

4. 研究経費

本研究に交付された研究費は、以下のとおりであった。

平成 13 年	1900 千円
平成 14 年	600 千円
平成 15 年	800 千円
計	3300 千円

5. 研究発表

・平成 13 年度

菅井裕行：障害の重い子どもとのかかわりの視点. 福島県養護教育センター「養護教育」, 53, 4-5, 2001.

菅井裕行：教師のかかわりや手だてに対する評価の在り方. 福島県肢体不自由教育専門部研修会報告書. 2002.

・平成 14 年度

日本特殊教育学会第 40 回大会自主シンポジウム：学校コンサルテーションによる重複障害教育担当教員の専門性支援 2002.

・平成 15 年度

日本特殊教育学会第 41 回大会自主シンポジウム：重複障害教育の動向と今後の課題. 2003.

菅井 裕行：感覚障害を伴う重複障害児教育をめぐる研究動向—視覚聴覚二重障害を中心に—. 特殊教育学研究 41 (5), 521-526, 2004. 日本特殊教育学会

菅井裕行：学校コンサルテーションにおけるテレビ会議システムの利用の可能性と課題. プロジェクト研究成果報告書「マルチメディアを用いた特殊教育に関する総合的情報システムの研究開発」独立行政法人国立特殊教育総合研究所, 2004. (印刷中)

酒井喜章・菅井裕行：静岡盲学校におけるテレビ会議システムの活用の取り組み事例. プロジェクト研究

成果報告書「マルチメディアを用いた特殊教育に関する総合的情報システムの研究開発」独立行政法人国立特殊教育総合研究所, 2004. (印刷中)

大江晃・菅井裕行：宮城県立盲学校におけるテレビ会議システムの活用の取り組み事例. プロジェクト研究成果報告書「マルチメディアを用いた特殊教育に関する総合的情報システムの研究開発」独立行政法人国立特殊教育総合研究所, 2004. (印刷中)

佐野恵子・近藤洋子・遠藤和弘・菅井裕行：千葉県立安房養護学校におけるテレビ会議システムの活用の取り組み事例. プロジェクト研究成果報告書「マルチメディアを用いた特殊教育に関する総合的情報システムの研究開発」独立行政法人国立特殊教育総合研究所, 2004. (印刷中)

菅井裕行・土谷良巳：視覚聴覚二重障害教育の現状と担当教師の専門性の課題. 独立行政法人国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部一般研究報告書, 2004 (印刷中)

菅井裕行・大江晃・阿部真由美：宮城県立盲学校における学校コンサルテーションの取り組み, 独立行政法人国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部一般研究報告書, 2004 (印刷中)

土谷良巳・菅井裕行・香山洋子・八木タイ・朝海映子・中田誠：栃木県立盲学校における学校コンサルテーションの取り組み, 独立行政法人国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部一般研究報告書, 2004 (印刷中)

菅井裕行・吉武清實：視覚聴覚二重障害教育を担当する教師の専門性—視覚聴覚二重障害が初期発達に及ぼす影響について—, 独立行政法人国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部一般研究報告書, 2004 (印刷中)